

平成27年8月9日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名: 清政会

報告者: 垣内秀孝

実施場所: 広島食肉市場
第9回広島県畜産共進会(肉牛) 実施日: 平成27年7月28日

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立つての思いや本市の現状など)
庄原市の産業振興の大きな柱である肉用牛振興をとり取り組み方向を定めるため、県内の肉牛生産者、JA、団体等に集い実施した。広島県畜産共進会(夏季・枝肉部)を視察研修する。

■参考とすべき事項

県内全域から肥育された肉用牛28頭が出品された。(性別の内訳は雌牛16頭、去勢牛12頭)

- (1) 出品された経営実態は 子牛導入による肥育牛20頭(庄原産10頭) 自家生産一貫経営での肥育牛8頭(庄原産1頭)
- (2) 肥育日齢(飼育期間)は最少で526日 最長で729日の結果である。畜一性がよく個体差が大きい。従って飼育技術と牛の改良度の良否に左右される結果が出ている。
- (3) 枝肉の良否格付はA5を最上としながら今回はA5の牛19頭 A4 7頭 A3 1頭である。県内の肥育仕上がり技術は上げられ。

■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきかなど)

共進会の後で枝肉の競売(セリ市場)が開設された。

最優秀賞の牛の事例は、
・産地 神石高原町
・出品者住所 神石高原町

・枝肉格付 A5、性別 雌牛、枝肉重量 426.2kg、肥育日齢(自家産である) 生後日齢 825日である。(2年3ヶ月飼育)

・セリ単価は、1kg当り、単価で競売された。330円であった。

庄原市は子牛を生産する牛の産地として個々が自負するが、肉用牛である事を念頭に、肉牛生産のために行政、経済関係(JA中心)生産者団体で未来の議論が必要である。例えば、改良の仕組み(交配計画の方向)求めらる肉牛の方向も含めて再講すべきである。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。